広島市教育センター
所報
No.82
平成18年６月

巻頭言

虹の架け橋

広島市教育センター所長　升　尾　好　博

今日，国を挙げて教育改革という大きな流れが進められていますが，その中で教育界の守るべき伝統が弱体化することがあってはならないと思います。それは授業研究（校内研修）です。実は，世界各国どこの国でも授業研究をしているわけではありません。授業研究は，広島市をはじめとする，日本の教育界の伝統的なよさであります。

この授業研究を一層活性化して，教職員の指導力・授業力のさらなる向上を図り，子どもに力を付けることこそ，教育改革のめざすところであると考えます。学校の公開研究会に集う先生方が真っ先に見るのは，その学校の研究報告書ではなく子どもの姿です。公開授業を通して見る子どもたちの学びの姿から，その背後にある授業の計画や方法のよさを学び取ろうとしているのです。

教育センターは，昭和53年の創立以来一貫して広島市の教育の向上に向けて学校と先生方を支援してまいりました。それは劇的な成果とは言えないかもしれませんが，着実な成果を上げてきたと言えます。また，これからもそうありたいと願っています。いかなる教育改革も，学校の教育力と教職員の指導力を高め，子どもの健やかな成長へつながるよう機能しなければ意味がないのです。教育センターは，教育改革と先生方，子どもと先生方をつなぐ架け橋としての役割を追求していきたいと考えています。特に今年度は，個々の学校・園や先生方に対して個別の相談や教育情報の提供に力点を置いて支援をしていきたいと考えています。

そのため，教育センターの事業を，以下のように大きく三つに区分して，それぞれの充実に努めてまいります。

その第一は，「教職員研修の充実」です。まず，研修講座を昨年度から７講座増やして，119講座といたしました。実施に当たっては，実際の授業だけでなく，模擬授業，指導案作成等、演習・実技・実習などを取り入れるとともに，可能な限り少人数形態で，個々の課題や悩みに応じることとしています。また，各学校はもとより家庭からもコンピュータを使って研修できる「ｅ―ラーニング研修」や，各学校・幼稚園に指導主事が出向き、授業研究等の活性化を支援する「サテライト研修」の充実を図ってまいります。

第二は，「カリキュラム開発・支援の充実」です。各教科・領域の年間指導計画，学習指導案，授業ビデオなどを，教育センター内部 Web ページを通して配信したり，図書資料室に配架したりすることを通して，カリキュラム開発・授業づくりなどの支援をしてまいります。

第三は，「教育実践研究・相談の充実」です。少人数教育推進など当面する教育課題の解決に資する指導主事研究の推進やグループ研究への支援，個々の学校・園や先生方に対する教育実践相談等を行うことにより，学校経営や授業づくりなどに対する支援をしてまいります。

子どもはそれぞれの家庭の宝であると同時に地域の宝です。その子どもたちを元気にし，先生方と学校を元気にする教育センターでありたいと願っています。また，先生方に頼りにされる，共に汗を流す教育センターでありたいと願っています。

教育センターは，これからも学校・園に寄り添いつつ事業を展開してまいりますので，一層のご活用のほどよろしくお願いいたします。

もくじ

○巻頭言 ……P. 1
○研修講座だより・図書資料室からのお知らせ …P. 2
○指導主事研究① ……P. 3
○指導主事研究② ……P. 4
○「授業研究ハンドブックⅡ」のご紹介 ……P. 5
○教育センターひろば ……P. 6

研修講座だより

～５月に実施した研修（一部）の概要をご紹介します。～

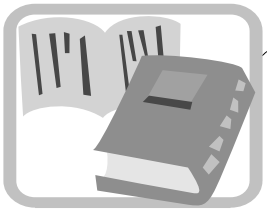
校内研修推進教員研修講座　主題　「授業研究のマネジメントとプロンプターの役割」

講座の概要

この講座は，各学校・園の校内研修の推進を担当されている先生方に，授業研究のねらいや授業後の振り返りの意味，プロンプターとしての協議会の進め方等についての理解を深めていただくことを目標としています。

校内研修会では，参加されたすべての先生方が授業を振り返ることにより改善の具体策等，今後の見通しを持つことが必要です。そのためには，校内研修推進教員の役割が重要となります。「プロンプター」とは演劇界で使われる言葉で，「俳優の後見，俳優がせりふを忘れた時，陰からそっと教える係のこと」です。授業研究後の協議会では，校内研修推進教員が，プロンプターとして授業者や授業観察者が授業を振り返り，その時その時に感じた様々な思いや考えを引き出すきっかけを与える人となることが求められます。第１日（５／10㈬）は，算数の授業のビデオの一場面を基にして，付箋紙を用いた振り返りの演習や，校内研修を推進していくうえでのプロンプターの役割について交流を行いました。この様子は，教育センター内部 Web ページでストリーミング配信しておりますので是非ご覧ください。また，各学校の教育目標実現のための授業研究（校内研修）の進め方については，５月に配布しました『授業研究ハンドブックⅡ』（５ページで紹介）をお読みください。

図書資料室からのお知らせ



図書資料室が より活用しやすくなりました

○　全国の教育研究所から送られてきた研究紀要等の**最新の教育情報**を手軽に活用していただけるようにするために，各学校・園に配付している**図書資料目録**だけでなく，**教育センター内部 Web ページ**からも必要な教育情報をキーワードで検索することができるようになりました。

○　図書資料室で**ビデオの視聴と貸し出し**ができます。**エルネット**で配信された番組のビデオも貸し出しています。

○　**特設コーナー**を設置し，緊要な教育課題等に関する本を紹介しています。また，**新刊図書の紹介コーナー**も設置しています。**カリキュラム開発支援コーナー（右写真）**を設置し、学習指導案や授業の VTR を配架しています。是非活用してください。

○　２階ロビーの教育雑誌コーナーには，今年度は**31種類の月刊誌**を配架しています。是非ご覧ください。

貸し出し

○書籍は，個人５冊まで，２週間以内
団体10冊まで，３週間以内

○ VTR は，個人・団体とも３本まで，１週間以内

※　なお，17:00以降にご利用の場合は，事前にご連絡をお願いします。

返　却　書籍については，**学校メール便**を利用して返却できます。（１回３冊まで）

広島市の子どもの平和に関する意識調査(3)

教育センター指導主事　大下　恵子
教育センター指導主事　水ノ上俊一

教育センターでは，広島市の子どもの平和に関する意識の実態や変化を把握し，被爆体験を原点とした広島市の平和教育を推進するための資料を得ることを目的に，平成17年７月に「広島市の子どもの平和に関する意識調査(3)」を実施しました。

この調査は，被爆50周年の平成７年に１回目を実施し，５年ごとに経年比較をしています。

今回の調査では，平成12年の調査に比べて被爆に関する基本的な知識・理解の上昇傾向，及び意欲・態度などの心情面の上昇傾向が見られました。

調査結果の概要を報告します。

(1)「平和に関する学習経験」について

<「原爆のことについてだれから聞いたか」について>

・「被爆者や被爆体験証言者の人」と回答した児童生徒の割合が大幅に増加した。
（小学生　平成12年　47.1%　→　平成17年　77.3%）
（中学生　平成12年　62.6%　→　平成17年　78.6%）

<「原爆に関連する施設を見学したり，その場所に行ったりしたこと」について>

・多くの児童生徒が原爆ドーム，平和記念資料館等を訪問している。

	小　学　生		中　学　生	
①	原爆ドーム	90.3%	原爆ドーム	94.8%
②	平和記念公園	87.0%	平和記念資料館	93.2%
③	平和記念資料館	74.3%	平和記念公園	93.1%

※「追悼平和祈念館」の利用も，小・中学生とも約25%あった。

<「平和学習で心に残っていること」について>

・「被爆者や被爆体験証言者の話」と回答した児童生徒の割合は増加した。
（小学生　平成12年　70人　→　平成17年　276人）
（中学生　平成12年　126人　→　平成17年　191人）

被爆者や被爆体験証言者から被爆に関する事実とその継承への強い願いを聞く機会が増え，平和学習を大変印象深いものにしている。被爆者の高齢化に伴い，被爆体験継承に果たす学校教育の役割が一層重要となると考えられることから，教職員一人一人がその役割を更に自覚して指導の充実を図ることが必要である。

(2)「平和への認識」について

<「今の日本は平和だと思うか」について>

・「平和だと思う」と回答した児童生徒数
平成12年 1130人（43.7%），平成17年 1219人（48.9%）
・「平和だと思わない」と回答した児童生徒数
平成12年　993人（38.4%），平成17年　940人（37.7%）

<「平和だと思う」児童生徒の主な理由>

①(国内に）戦争がないから
②いじめ，様々な問題はあるが，まあまあ平和である
③ふつうに安心して生活できるから

<「平和だと思わない」児童生徒の主な理由>

①犯罪や事件があるから
②世界の中では戦争や核兵器などの問題があるから
③いじめや自殺があるから

「平和だと思う」，「平和だと思わない」と回答した理由が多様である。今後は，一人一人の児童生徒に被爆体験を確かに継承していく学習の一層の充実を図るとともに，個々の考えを交流し，いじめや自殺などの事象についても平和実現への自己の課題として捉えられるようにする学習を充実させ，ヒロシマの子どもとして平和の意味を深く考え，世界平和への認識を高められるようにすることが必要である。

(3)「広島市の平和教育の目標にかかわること」について

<「広島への原爆投下の年・月日・時分」について>

・「全て正答」の児童生徒の割合が平成12年に比べて増加した。
（小学生　平成12年　35.2%　→　平成17年　49.6%）
（中学生　平成12年　63.0%　→　平成17年　67.6%）

<「広島への原爆投下によって12月末までに亡くなった人の数」について>

・正答（14万人）の割合が大幅に増加した。
（小学生　平成12年　12.0%　→　平成17年　33.9%）
（中学生　平成12年　16.2%　→　平成17年　30.5%）

<「将来，平和について役立つことをすること」について>

・「ぜひ（できれば）してみたい」と回答した児童生徒の割合が平成12年に比べて若干増加した。
（小学生　平成12年　79.8%　→　平成17年　80.2%）
（中学生　平成12年　66.5%　→　平成17年　67.6%）

「広島への原爆投下の年・月日・時分」の完全正答率や「原爆投下で亡くなった人の数」の正答率が増加したのは，平和関連事業の実施や，学校・家庭・地域等における学習の成果と考えられるが，まだ十分とは言えない。今後は，８月６日を中心として，児童生徒，学校，地域の実情に応じて平和を考える集い等を開催するなどして，被爆に関する基本的な知識・理解を深めるための学習をさらに充実させていくことが必要である。

詳しい内容については，各学校・園に配布しております報告書をご覧ください。これからの平和教育を，一層改善・充実させる一助となれば幸いです。

少人数学級における教育指導の工夫改善に係る実践研究

教育センター主任指導主事(事)主任　藤村　和彦
教育センター指導主事　島本　圭子
教育センター指導主事　正原　直行
教育センター指導主事　山領　勲

教育センターでは，平成16年度に，より効果的な少人数指導の在り方を探るための研究を進めてきました。しかし，全国的に生活集団そのものの少人数化に向けた取組が行われている中，本市においてもその検討がされていることから，昨年度は，「１学級の児童生徒数が少ないことにより生じると思われる学習指導，生徒指導・学級経営上のよさ(以下「少人数教育のよさ」)」を生かし，個に応じた指導のより一層の充実を図るための指導方法の工夫改善について探っていきました。

研究協力校（１学級の児童数が概ね25人程度で，全学年とも１～２学級程度の小規模校）の教師と児童を対象とした意識調査をしたところ，少人数学級の教育指導をより充実させるための工夫改善の視点として次のようなことが見えてきました。

＜工夫改善の視点＞

○教室空間の有効活用
○児童同士の話し合い活動の質的な向上
○教材・教具の工夫
○個に応じた指導のより一層の工夫
○教師と児童との親密度の向上

本研究は，これらの視点に基づいて授業改善に取り組んだ実践的な研究です。ここでは，「児童同士の話し合い活動の質的な向上」と「個に応じた指導のより一層の工夫」の二つに重点をおいて，算数科の授業改善に取り組んだ事例を紹介します。

１回目の授業実践では，具体的な指導の手だてを次のように考えて実施しました。

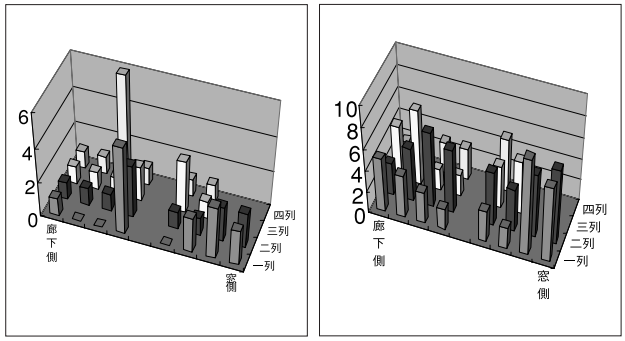
○　ペア学習を取り入れ，隣に座る友達と二人組で学習を進め，課題解決の過程において，児童が気軽に自分の考えを表現し，交流できる場を設ける。
○　課題解決のためのヒントを記した「ヒントカード」を，児童の求めに応じて手渡しすることで学習状況を見取り，その後の個別支援に活用する。

実践記録の振り返りにより，教師は，ヒントカードを必要とする児童に直接手渡すことで，児童のつぶやきや助言を求める児童へ対応はしているものの，個別支援を行う児童に偏りが生じていたことに気付きました。

そこで，次のような更なる授業改善のための手だてを計画し，２回目の実践を行いました。

○　座席カードを活用し，ペア学習の状況を計画的に見取り，支援を行う。
○　ペア学習による自力解決の結果を記すための記録カードの活用による学習状況の見取りと，板書掲示に活用することにより全員発言の機会を確保する。
○　振り返りプリントの記述を基に，個々の児童への個別支援を行う。

更にこれらのことを学習指導案に「少人数教育のよさを生かした指導の工夫」として明確に位置付け，２回目の実践を行いました。



図：教師の個別支援の回数（左：１回目，右：２回目）

上の図から，２回目には，教師の個別支援の回数が劇的に増加するとともに，偏り無くどの児童にも支援が行き届いていることがわかります。授業後の児童の意識調査からも，学習の理解度や友達との相談の頻度が向上したことがうかがえました。教師が個々の児童の学習状況の見取りと支援を確実に行っていくための手だてを具体化し，学習の進行に合わせ，計画的に，きめ細かく指導したことが効果として表れています。また，２回目の意識調査を前述の工夫改善の視点に照らすと，教師，児童ともにそれぞれの項目に対する意識が概ね向上しているといった結果が示されました。

本研究を通して次のようなことが分かりました。

「少人数教育のよさ」が機能するためには，教師自身が少人数であることのよさを生かした具体的な計画を立案，実践，評価，そして，より「少人数教育のよさ」が機能するための改善といったいわゆるマネジメントサイクルに沿った教育実践をすることが大切です。

そのことが，児童の学習の理解度や学校生活の充実度の向上等につながるとともに，教師自身の学習指導に係る指導力等の向上を図ることができることになります。

このほか，「１回目や２回目の意識調査の結果」「実践事例における個々の児童の見取りと教師のかかわり」「工夫改善の六つの視点に照らした教師の具体的な取組の事例」など，『教育センター研究紀要第26号（７月に配布予定)』にまとめていますので，ご活用ください。

『授業研究ハンドブックⅡ』のご紹介

どんな先生が
好きですか？

授業が上手で
分かりやすい
先生です！

各学校では子どもたちに「確かな学力」を身につけさせるための学習指導の工夫・改善が進められています。

その取組の中心となるのが，教師のいわゆる「授業力」の一層の向上を図ることと考えられます。

そこで，教育センターでは，昨年度，個々の教師の授業改善を図り授業の質を高めていくための資料として『授業研究ハンドブック』を刊行しました。このハンドブックでは，「子どもの学び」と「教師の実践」に視点をおき，子どもの学びをつぶさに見取ることを通して，教材研究の進め方や学習指導案の作成方法，授業展開における指導技術，さらには授業の評価について分かりやすくまとめています。

今年度は，各学校・園の研究主題に基づいて，具体的にどのように授業研究（校内研修）を進めていけばよいのか，その結果をどのように生かせば個々の教師の授業力を高めることができるのか，さらには，教師同士の「同僚性」や「協働性」はどのようにすれば高めることができるのかといった，授業研究のマネジメントについ ての課題の解決を図ることを目指して『授業研究ハンドブックⅡ』を刊行しました。

このハンドブックは，先生方の問いに回答する形式（Q&A形式）でまとめています。さらに，協議会の進め方などについては，具体的なイメージを持つことができるように，市立学校で実際に行われた実践を基に事例として掲載しています。

『授業研究ハンドブック』と『授業研究ハンドブックⅡ』を参考に，各学校で授業研究を通した「授業力」の向上に取り組んでみませんか。ハンドブックについてのお問い合わせは，住吉までお願いします。

『授業研究ハンドブックⅡ』

目　次

第Ⅰ章　《授業研究（校内研修）の企画・推進》

Q１　授業研究とはどのようなものですか
Q２　授業研究のねらいは何ですか
Q３　学校教育目標と研究主題はどのような関係ですか
Q４　研究推進担当者は授業研究をどのようにマネジメントすればよいですか
Q５　校内研究を進めるための校内研修組織はどうあるとよいですか

【コラム】高等学校では授業研究をどのように進めるとよいですか

第Ⅱ章　《授業研究（校内研修）に視点を当てた学習指導例》

Q６　授業研究に視点を当てた学習指導案とはどのようなものですか
Q７　授業研究に視点を当てた学習指導案にするためにはどのように工夫するとよいですか
Q８　研究主題を学習指導案の中に位置付けるにはどのようにするとよいですか
Q９　授業研究が充実するための学習指導案にはどのようなものがありますか
Q10　学習指導案を作成するうえでどのような工夫をするとよいですか

【コラム】幼稚園では保育研究をどのように進めるとよいですか

第Ⅲ章　《授業記録の取り方と研究協議会の進め方》

Q11　なぜ授業記録が必要なのですか
Q12　授業をビデオに撮って活用するにはどのようにするとよいですか
Q13　授業後の協議会の充実を図るにはどのような方法がありますか
Q14　協議会を深めるためには付箋紙にどのようなことを書くとよいですか
Q15　プロンプターはどのように協議会を進めるとよいですか

【コラム】特別支援教育の授業研究を充実させるためにはどのようにするとよいですか

第Ⅳ章　《授業研究の改善とその評価》

Q16　授業研究の改善にはどのような方法がありますか
Q17　授業研究の評価はどのように進めるとよいですか

教育センターひろば

職員・分掌

	事業等	職名	職員	主な担当業務	
		所長	升尾　好博	所務総括	
		次長	尾形　慎治	所務管理・執行	
管理部	庶務	主幹（事）主任	浜本　博昭	管理部総括，施設設備管理等	
		主事	栗栖美保子	予算・決算，文書，経理等	
		主事	瀬戸　靖成	安全点検，文書管理等	
研修1部	指定研修等	主任指導主事(事)主任	藤村　和彦	研修1部総括	外国語（英語）科
		指導主事	島本　圭子	経験者研修，サテライト研修等担当	算数科・数学科
		指導主事	水ノ上俊一	初任者研修，管理職研修等担当	生活科，特別活動
		指導主事	正原　直行	10年経験者研修，管理職研修等担当	地理歴史科
		指導主事	堂鼻　康晴	主任主事研修，ステップアップ研修，英語教員研修等担当	外国語（英語）科
		指導主事	山領　勲	ステップアップ研修，障害児教育新規担当教員研修等担当	特別支援教育
		研修指導員	辻　修壯	指定研修，ステップアップ研修等担当	数学科
		研修指導員	井東　弘	指定研修，ステップアップ研修等担当	理科
		研修指導員	今田　善行	指定研修，ステップアップ研修等担当	算数科
研修2部	一般研修等	主任指導主事(事)主任	堂道　和雄	研修2部総括	理科
		主任指導主事	住吉　磨	コンピュータ研修，e−ラーニング研修等担当	情報教育
		指導主事	大下　惠子	教科等別研修，指導主事研究等担当	国語科，平和教育
		指導主事	清水　剛	職務別研修，研究員研修の推進等担当	体育科，保健体育科，幼稚園教育
		指導主事	岩田　浩一	課題別研修，コンピュータ研修等担当	情報教育，キャリア教育
		指導主事	胤森　裕暢	課題別研修，グループ研究等担当	公民科，道徳教育，人権教育
		研修指導員	濱田　昭法	一般研修，研究員指導等担当	図画工作科，美術科
		研修指導員	松井貴美子	一般研修，研究員指導等担当	生活科，総合的な学習の時間
		図書資料分類整理員	大下千賀子	図書資料室管理関係事務	

職員の異動

＊離退任　～在職中はお世話になりました～

神川　巧　主幹(事)主任（退職）
中村　良孝　主幹（企画総務局人事部福利課へ）
谷田　増幸　指導主事（国立教育政策研究所へ）
福本喜代子　研修指導員（退職）

＊就　任　～どうぞよろしくお願いします～

浜本　博昭　主幹(事)主任（環境局施設部出島処理場から）
堂鼻　康晴　指導主事（舟入高等学校から）
胤森　裕暢　指導主事（基町高等学校から）
今田　善行　研修指導員（畑賀小学校から）

編集後記

今年度も「元気の出る・頼りにされる・共に汗を流す教育センター」をめざしてがんばります。

研究員（平成18年４月～平成19年３月）

今年度は次の７名の先生方が，それぞれの専門分野で研究を進めておられます。

国語科教育：児玉　敬子（中筋小学校）
道徳：野上　真二（日浦小学校）
特別活動：岡田　由佳（三篠小学校）
特別支援教育：牛尾　泰久（己斐上小学校）
情報教育：宇田　昭史（古田中学校）
英語科教育：小茂田由美（美鈴が丘高等学校）
幼稚園教育：江村美紀子（船越幼稚園）

題字「所報」
広島市立亀崎幼稚園長　安永　智子

表紙絵「ひろしま」
広島市立本川小学校校長　奥原　球喜

編集・発行／広島市教育センター
〒732-0068　広島市東区牛田新町一丁目17番１号
ＴＥＬ（０８２）２２３－３５６３
ＦＡＸ（０８２）２２３－３５８０
E-mail : center@center.edu.city.hiroshima.jp
外部Webページ：
http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/
内部Webページ：
http://192.168.6.10/

広Ｘ6－2006－11(1)